

室尾冷凍運輸株式会社

〒737-0822 広島県呉市築地町5-15 (本社) ☎0823-24-2727

<http://www.muroo.co.jp>

会社概要

沿革

創立は昭和38(1963)年5月。水産加工物の保冷輸送が少なかった時代、他社に先駆けて、生カキ・塩干物の冷蔵輸送を主業務として創業。

その後、冷凍・冷蔵・生鮮食品全般へと取扱い品目を広げながら、営業所、配送センターを順次拡大。

現在、呉市にある本社を中心に、広島営業所、福山営業所、松江営業所、福岡営業所、えびの営業所、東広島物流ターミナル、広島センター、倉敷共配センター、米子配送センター、和歌山センターなど、中京地区から九州地区にかけて、約40の営業所を展開。冷凍物を中心とした輸送業務を行っています。

平成12(2000)年4月、ISO9002を取得。総合物流サービスとして飛躍を目指しています。

障害者雇用優良事業所表彰

広島県知事表彰(平成11年)

厚生労働大臣表彰(平成13年)



室尾冷凍運輸株式会社本社外観

雇用状況

従業員数 1200名

うち障害者数 16名

(平成13年12月現在)

(除外率 40%)

除外率とは
障害者の就業が困難とされている職種の労働者が相当の割合を占める業種に設けられている障害者雇用義務の軽減措置

業務の概要

冷蔵・冷凍・生鮮食品の輸送
スーパー、コンビニ、百貨店への商品を対象とした「配送センター」の管理、運営



米子配送センター



700台を数えるトラック

障害者雇用に向けて

取り組みと工夫

室尾冷凍運輸株式会社は、広島のカキの輸送でスタートした会社という経緯があり、当初から「地元の雇用に少しでも貢献したい」と、「障害者雇用を積極的に進めたい」との思いがありました。しかし、業務の性質上、難易度が高く難しいという現状がありました。

平成9（1997）年から、食品の輸送業務に加え、「配送センター」の管理・運営を積極的に進めていきました。この配送センター内での業務は、デジタル化・自動化が進められ、障害者の勤務を許容する度合いが高くなっています。

同年から障害者雇用が促進され、現在十数名の障害者が勤務しています。多くの配送センターの中で、特に賀茂郡黒瀬町にある「東広島物流ターミナル」と、広島市西区の「広島センター」での勤務が進められています。

配送センターでは、商品の保管のみにとどまらず、仕入れした商品のパッケージング、選別、鮮度管理までを一貫して処理する工程が作り上げられています。また、一部の大型量販店とはオンラインで情報を共有するシステムが整えられており、注文に応じて即座に伝票が打ち出され、即納しています。

今まで本社の営業、経理、運送の実務などがほとんどだった職場に、センター内での内勤業務が発生し、指導担当者のもとで障害者が勤務可能となりました。

商品パッケージング

伝票に記された商品のピッキング（選別）

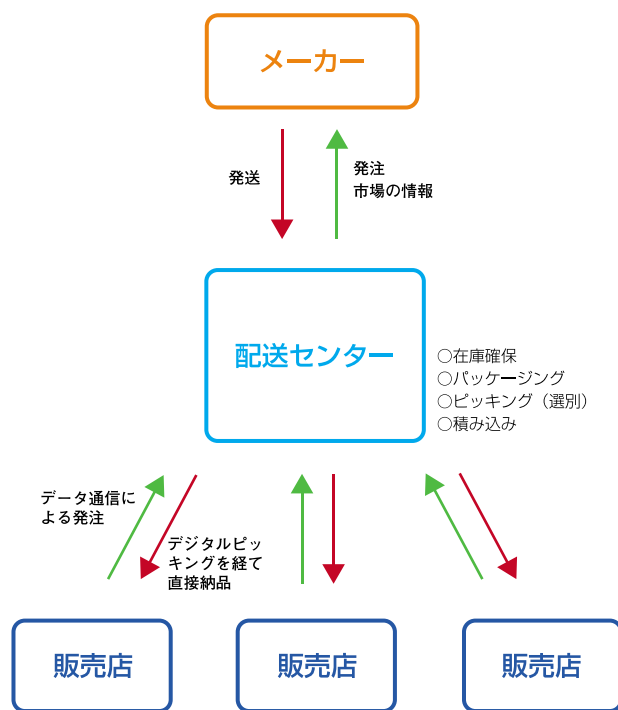
専用搬出口への商品集積

この業務内では障害のある人、ない人の区別はなく、全く同じ業務内容に従事しています。その中で室温冷凍では以下のシステムを採用しています。

障害者を採用した場合、必ず「指導担当者」をつけ、「あなたの指導担当はこの人です」と明確に知らせます。業務の質問、相談、困ったことなどがあつた場合、誰に相談すべきかをはっきりとさせておきます。

障害者に勤務への安心感を与え、労働意欲の向上につながります。また、指導担当者も個別のコミュニケーションで個性を把握することによって、能力を引き出しやすくなります。

定着率が向上し、センターの生産性も高くなっています。



Top's Interview

当社は昭和38（1963）年、生力キ・塩干物の輸送を主業務としてスタートしました。最初は文字通り裸一貫でしたが、当時は非常に珍しかった保冷輸送に特化し、他社に先駆けることができました。地元の特産品の輸送でスタートした会社ですから、「いつかは地元の方々の雇用に貢献したい」との思いはあったのですが、昭和63（1988）年、業界では異質の「配送センター」を設置。それを順次改善・拡大していくことで、恩返しができるようになりました。

私は社会人ラグビーで日本一になった経験もあります。フォワードで花園を湧かせたものですが、会社も同じで、各人が個としての力を一生懸命発揮すれば、自然とチームが勝利に導かれるのではないのでしょうか。逆境を乗り越えようと努力する人間に、障害のあるなしは関係ありません。



代表取締役社長
山下 俊夫さん



総務人事部 総務課 課長 岩崎 重夫さん

岩崎さんは総務課の課長として組織全体に関わる事務を管理しています。「正直な話、当社は障害者に対して、福利厚生面での特別な取り組みはしていません。また、障害のある社員とない社員の区別もありません」。それでも多くの障害者が勤務し定着している要因はなんでしょうか。「障害者の社員には必ず指導担当者を明確にし、質問等、相談すべき人をはっきりさせています。だれでも『できるようになりたい、成長したい』という向上心は持つもの。この仕事は楽な仕事ではありませんが、しっかりした指導担当者につき、一生懸命がんばれば、誰でも自分で自分の成長が感じられるものです。その喜びが定着する要因になっているのではないのでしょうか。障害者ががんばる姿は他の社員にもいい影響を与えています」



東広島物流ターミナル第三センター 副センター長 江子 英徳さん

江子さんは28歳という若さで、膨大な商品の集積する第三センターの副センター長を務められています。「障害者かどうかというのは普段ほとんど意識せずに接していますが、誰にも積極的に声をかけ、お互いにあいさつを交わすことを心がけています。コミュニケーションをとることで、仕事がスムーズに進むかどうか違ってきますからね」

第三センター 中田 育兵さん

中田さんは指導担当者として、二人の障害者を指導・管理しています。「障害者かどうかは全然関係ないですね。その人の能力の範囲内で、できるところまでがんばってもらっていますし、そうじゃないと仕事になりません。きついことも言っているかもしれませんが、一生懸命仕事していれば能力は上がりますし、それは僕が一番分かっています。しっかりついてきてくれています」



TOPICS

平成9年3月、呉営業所の社員が、大阪で行われた日本ろうあボウリング選手権大会で3位に入賞。

その後、6月1日～9日までデンマークのコペンハーゲンで行われた第18回世界ろうあ者競技大会のボウリング種目で、421人中24位になりました。その時はたくさんの社員からカンパがあり、渡航費用に充てられました。

